



砺波市立 庄南小学校

校長：北田 耕三先生
 指導教諭：竹田 新先生
 発表児童：4年1組(27名)



砺波市立庄南小学校は、昭和54年に太田小学校、中野小学校及び出町小学校の一部校区を統合して開校しました。現在、217名の児童が在籍しています。

校区は、庄川が砺波平野に注ぐところに扇形に広がっています。中野、大門、太田の3地区で構成されています。大きな庄川の恵みを生かして、米はもちろん、チューリップ、大門そうめん、種もみの生産の盛んな農村地帯です。

発表テーマ

わたしたちの庄川…現在・過去・未来

庄川の今、庄川の昔話、そして自慢の庄川の未来を考えました。身近な庄川において体験したこと、調査したこと、その「現在・過去・未来」を発表します。

竹田 新 先生より

自慢の庄川!! 動き始めた子どもたち 未来の庄川を私たちの手で守りたい!

庄南小学校校歌は「立山望む庄川の鮎の姿も生き生きと～」で始まります。とても身近で自慢の庄川。でも、子どもたちの庄川に対するイメージは、水きり、鮎釣り、バーベキュー…。実はよく知らないという実態でした。

子どもたちは総合的な学習の中で、庄川へ行って遊んだり、調査活動を展開したりしました。そこで、庄川の現在と過去を知り、これまで以上に庄川に愛着をもつようになってきました。

「大好きな庄川の未来は自分たちで守りたい」「今できることは何か」を考え、取り組み始めた子どもたちは真剣そのものでした。

大好きな庄川を守るために、子どもたちの活動は、これからも続いていきます。



考えたこと! 感じたこと!

私たちが庄川を守っていく

宮林 菜々子(4年生)

私が庄川を調べて思ったことは、庄川は私たちの生活に欠かせないけれど、人間は庄川を汚しているということです。

庄川について学んだ私たちはどんなに庄川が大切か知っているけれど、知らない人は平気でゴミを捨てていきます。庄川は悪いことをしないのに、人間は庄川に悪いことをしても平気です。だから、「マナーを守るように呼びかける」「看板を立てる」「ゴミ拾いをする」「チラシやポスターを作る」という活動をしてきました。

私は、この庄川がずっと今のままの庄川であってほしいと思います。



▲2枚の看板をたてました。きれいな庄川を守りたいです。



▲親子活動で鮎のつかみどりに参加しました。



▲水生生物調査で、庄川のきれいさが証明されました。



▲庄川の河口です。ごみがたくさんあり、残念。



▲松島浄水場をまねて、浄水実験をしました。



▲マナーアップのために看板を作りました。



▲学習発表会で庄川について紹介し、マナーアップを呼びかけました。

学習テーマの設定

身近な川を調べて学ぶ
学校の近くにあり、地域のみんなに親しまれる庄川。4年生は総合的な学習の時間に、庄川について調べたり、体験して、いろいろなことを学びました。



おいしさ・きれいさ体験
きれいでおいしい庄川の水を利用して、いろいろな特産品が作られています。五箇山とうふや五箇山和紙、日本一といわれる種もみ、大門そうめんづくりにも生かされている庄川の水についてもっと知りたい!

学習の展開

庄川は本当にきれい?

松島浄水場では長い時間をかけて庄川の水の砂やごみをしずめてきれいにし、消毒して水道水にしていました。庄川の水は本当にきれいなのか心配になり、自分たちで浄水装置を作って実験し確かめました。



調査で水のきれいさを確認
太田橋と雄神大橋の2か所で水生生物調査したところ、きれいな水にすむヒラタカゲロウなどがいました。また川の透明度やバックテストでも庄川の水はきれいだと判定され、とてもうれしかったです。

たくさんの昔話から学ぶ

庄川の昔話を調べると、小牧ダムの建設や太田橋の名前の由来などたくさんの話がありました。また昭和9年の洪水での勇気ある7人の話など、庄川の歴史は洪水との戦いだったと知りました。



未来も“自慢の庄川”に!
過去から現在まで暮らしに深く結びついた庄川。でも河口のごみなどを見ると、私たちが大人になった時も、安心して水が飲めるか心配です。そこで未来も“自慢の庄川”であってほしいと行動を始めました。

これからも庄川を守る

河原のごみを拾う、マナーを守る呼びかけの看板を立てる、ポイ捨て禁止のチラシやポスターを作るなど、活動は始まったばかり…。これからも自慢の庄川を守っていきます。We love the SHOU RIVER!

